

9-8			
主題	誤嚥性肺炎ゼロを目指す適切な口腔ケアと、その取り組み及び効果について		
法人名・事業所名	社福)仁生社 特別養護老人ホーム中川園		
発表者(職種)	豊田洋輔(介護職員)、野々宮和樹(介護職員)		
共同研究(実践)者	淵上真紀(介護職員)、高橋愛美(介護職員)、杉山恵子(歯科衛生士)		
電話	03-3607-4060	FAX	03-3607-4654
事業所紹介	葛飾区初の特別養護老人ホームとして昭和43年に開設。日常生活を通して、入所された方に生きがいを感じられるサービスを提供し、自立の支援を図っています。また、利用者様のメンタル面を含めた健康と生活のリズムを大切にされたケアを目指しています。		
<p><b>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</b></p> <p>当施設では、肺炎及び誤嚥性肺炎による入院者数が多く、なかなか定員に達しない日々が続いている。そこで、誤嚥性肺炎を防ぐ為には何が出来るのか?と考え、訪問歯科医院に相談した所、歯科衛生士を派遣していただき、口腔ケアについて施設内研修をする運びとなった。</p> <p><b>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</b></p> <p>本研究では、歯科衛生士の指導を通して、誤嚥性肺炎の危険性を再認識する事で、口腔ケアへの取り組み姿勢が変化し、適切な口腔ケアを実践する事で、誤嚥性肺炎の予防に繋がるのではないかと検証した。</p> <p><b>《3. 具体的な取り組みの内容》</b></p> <p>①誤嚥性肺炎の知識を深める。                  ②歯科衛生士による指導                  ③当フロアの口腔ケアの見直し及び実践</p> <p><b>《4. 取り組みの結果》</b></p> <p>他のフロアと比較すると肺炎及び誤嚥性肺炎による入院者数が減少していった。また、12月から3月は同理由での入院者はゼロであった。さらに、発熱・声がれ・咳等の入院に至らない病院受診者も減少。さらに、利用者様の意識が変わりつつあり、ご自分で積極的に口腔ケアを行なう方が増えてきた。</p> <p><b>《5. 考察、まとめ》</b></p> <p>取り組み当初は効果があるのか半信半疑であったが、他のフロアの利用者様が入院しているのを見て、当フロアでは入院者がいなかった現状で、全てではないにしろ、口腔ケアの効果が証明されたと考える。今後も歯科衛生士の指導の下、充実した口腔ケアを実践し、入院される方を施設全体で減らしていきたい。</p> <p><b>《6. 倫理的配慮に関する事項》</b></p> <p>なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。</p> <p><b>《7. 参考文献》</b></p> <p>・「口腔ケア 入れ歯で歩く元気な老後」(2005年) 福田徳治・石塚三寿、日本医学館</p> <p><b>《8. 提案と発信》</b></p> <p>利用者様に適切な口腔ケアを提供する事で、食欲の増進、体力の増強や積極性、口腔機能の向上及び誤嚥性肺炎の予防が出来た。今後も継続していく事で、誤嚥性肺炎を防ぎ、長寿へと繋げていきたい。</p>			